

被災したこどもの居場所づくり支援（こどもの居場所づくりコーディネーター配置等支援事業）

※既定予算（令和8年度予算額（7億円の内数）を活用して迅速に実施

1 施策の概要

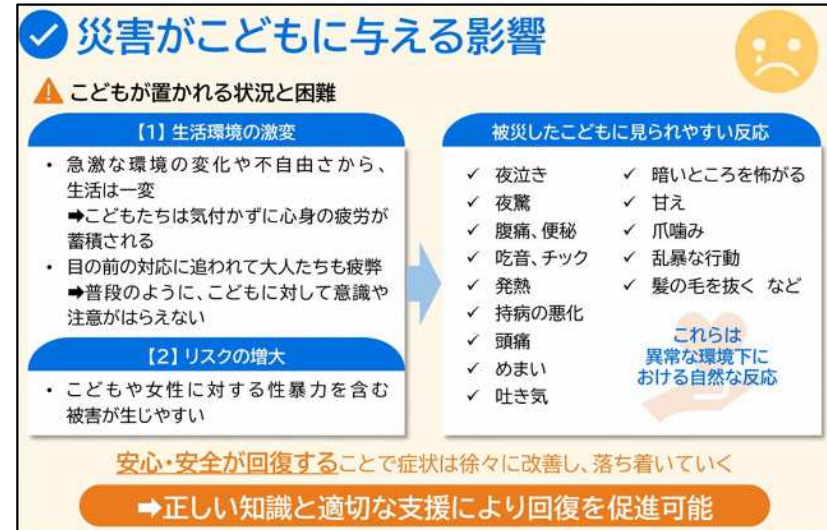
被災したこどもの心の負担軽減や回復等に資する環境の整備を目的として、こどもの遊びの機会提供や学習のためのスペース設置等、こどもの居場所づくりに要する費用の補助を行う。

2 施策の詳細

被災したこどもの心の負担軽減や回復等に資する環境の整備のため、自治体・民間団体によるこどもの居場所づくりやこどもの可能性を引き出す取組を支援する。

令和8年熊本地震を踏まえ募集する取組

- ・ 被災したこどもの居場所づくり
 - ＜想定される取り組み＞
 - ・ 被災したこどもの居場所の運営
 - ・ 被災時一時預かり 等
- ・ 被災したこどもの居場所づくりを行う民間団体・市町村のサポート



3 実施主体等

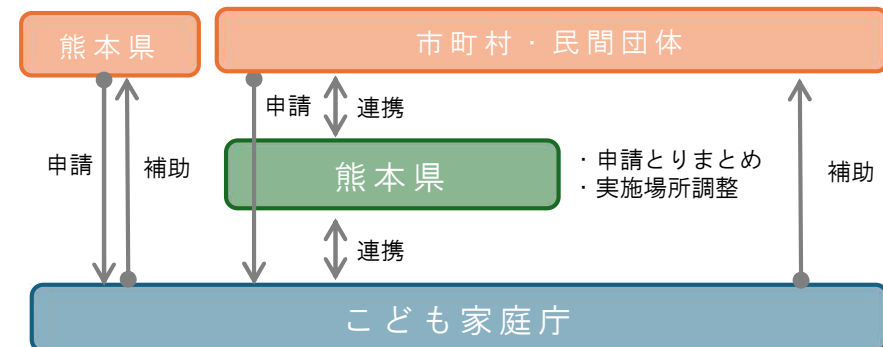
【実施主体】県、市町村、民間団体

【補助基準額】1カ所当たり 5,000千円（上限）

※一団体当たり原則3カ所まで

【負担割合】国 10/10

【補助対象期間】令和8年7月28日 ～ 令和9年3月31日





○被災した農地、用排水施設等の復旧に向けた人的・技術的支援

- ・ 発災直後から、全国からポンプなどの災害対策機材とともに応援を得て、延べ約2,900人・日を派遣。県と連携しつつ、ため池の点検・調査、農業用水確保等を実施。
- ・ MAFF-SATの市町村担当チームが個別に巡回し、農地・用排水施設等の復旧に向けた制度・手続の説明や査定に向けた作業を支援。

○農業用水の確保

定植に伴い用水需要の増加が見込まれるイチゴ・トマト等に用水を供給するため、各地区で全力で取り組んでいる。

(1)八代平野地区

- ・ 被災していた不知火幹線水路等について、応急復旧工事を実施し、8月8日より、農地約4,400haへの送水を再開。併せて、トマト農家等のために給水車の設置、80台以上のポンプを活用した排水路から用水路への水の補給等を実施。
- ・ 現在、区域を分けて2日ごとの交互配水により用水供給中。
- ・ 追加対策工事により、8月16日より送水量の増量に取り組み、8月23日までに末端水路の最下流部まで配水されていることを確認。

(2)氷川大堰掛かり

- ・ 氷川大堰直下の幹線用水路の被災後、国と県が用意したポンプ約100台を投入。また、イチゴ農家等のために大堰の取水口に2台ポンプを設置。8月7日より、通水に厳しい制約があるながらも断水した農地への段階的な配水を開始。
- ・ 農研機構（農村工学研究部門）及びMAFF-SATにより幹線用水路の応急復旧及び暫定通水を支援。
- ・ 8月22日から、幹線用水路の充水試験を実施中。25日、上流域の約190haの大半の農地において幹線用水路からの用水供給が可能となった旨、農家に周知。

■延べ派遣者数（人・日、8/28時点）

農林水産本省	162	東海	251
地方農政局	2,699	近畿	417
東北	36	中国四国	419
関東	59	九州	1,230
北陸	287	計	2,861



用水路への水の補給（八代市）



追加工事により送水量を増量（八代市）



最下流部まで用水が到達（八代市）



大堰の取水口に設置したポンプ（氷川町）



用水路への給水（氷川町）



上流域における通水再開（氷川町）

被災地におけるトマトといちごの営農再開に向けて

- ▶ 全国1位のトマト産地、全国3位のいちご産地の中心である八代市、氷川町が地震により被災。
- ▶ 生産現場では、苗の必要量は確保済み。現在、トマトは定植作業中、いちごは9月中旬定植開始予定。用意した苗は全て植え、計画通りの生産を実現したい。
- ▶ 計画通りの収穫と出荷に向けて、生育期の水の確保、集出荷体制の整備が課題。

支援策のポイント

生育期の水の確保

(用水復旧、給水車の配置、貯水タンクの利用など)

支援策のポイント

集出荷場の復旧

代替施設の確保

熊本ブランドの維持・発展



(いちご)

和鹿島いちご部会に参加し農業者の水の確保状況の把握(8/18)。

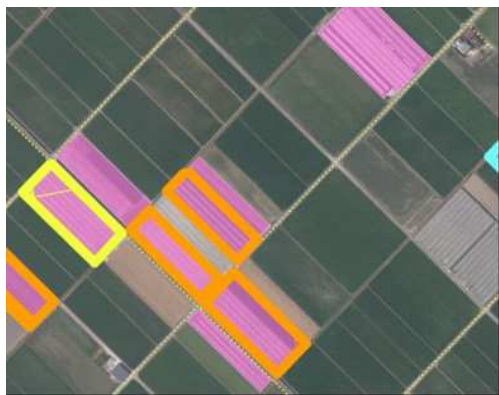
聞き取りによる補足調査を開始し(8/21)、水の確保状況がわかる地図を作成。

現在、水の確保に必要な検討を進めているところ。

関係者：熊本県、氷川町、JA やつしろ、九州農政局



水の確保状況がわかる地図(イメージ)



(トマト)

追加対策工事による通水量の増量、給水車の設置(八代市)

幹線用水路の仮復旧・充水試験、ポンプによる給水(氷川町)



令和8年熊本地震への経済産業省の対応（8月28日（金）時点）

※下線部は前回からの更新箇所

1. エネルギー・インフラの状況

状況

電力	熊本県で約4.9万戸の停電が発生。高圧線に加え低圧線も停電は復旧済み。 引込線を原因とする停電は、連絡いただき次第、原則当日の解消を目指す。九州電力送配電から、相談窓口について、避難所での周知を実施するとともに、順次、状況を確認し各戸に掲示・投函。
発電所	火力発電所※1・原子力発電所※2ともに、運転継続中。 ※1：九電・電源開発保有の発電所、※2：川内①②号機・玄海④号機
都市ガス・LPガス	八代市における約8,900戸供給停止のうち、家屋倒壊（65戸）を除き全戸で供給再開済。 八代市のLPガス充てん所の一部設備に損傷あり。LPガス供給には支障なし。
SS （ガソリンスタンド）	営業中70（被害の大きかった八代市、宇城市、氷川町のガソリンスタンド73か所の9割超。）残り3か所の復旧見込み：設備復旧が必要となり、数か月以上かかる見通し 上記の他、震度6弱以上を記録した13市町村（熊本市、合志市、上天草市、宇土市等 計250か所）については、営業中249、営業不可1

2. 物資支援

- 被害の大きかった八代市・宇城市・宇土市・氷川町でコンビニ全店（100店舗/100店舗）が営業再開。県内全体787店舗中、休業店舗数は、29日(水):211店舗⇒現在2店舗。
- 業務用エアコンは15か所要請、うち15か所で設置済、循環型シャワー(WOTA)は147台設置済。仮設・簡易トイレや段ボールベッド、熱中症対策用品、衛生用品、ブルーシート等も順次熊本の物流拠点に到着。大手物流会社による支援は、より細かな配送ニーズに対応するため、各市町の個別手配に移行。

3. 中小企業・小規模事業者への支援

- 災害救助法の適用に伴い資金繰り支援（※）、相談窓口（20か所）設置済。
※①災害復旧貸付等の実施、②セーフティネット保証4号（100%保証）の適用、③既往債務の返済条件緩和等の対応、④小規模企業共済災害貸付の適用
- 中小企業分野の局地激甚災害の指定について熊本県の5市町（宇城市・氷川町・嘉島町、八代市、御船町）を8/25(火)に閣議決定。8/28(金)公布・施行。
8/7(金)に1,800業界団体及び国・自治体の長に中小受託事業者との取引への配慮要請済。
- 局激指定見込みを踏まえ、「自治体連携型補助金」を通じて熊本県が実施する県内全域の中小・小規模事業者向けの復旧支援事業に、なりわい再建支援補助金と同等の高い補助率の支援が可能。支援対象を中堅企業まで拡大するとともに、多重被災事業者に対しては10/10定額補助を講じる。
- 局激指定地域では「災害復旧貸付」の金利をさらに引き下げ（1,000万円まで▲0.9%）、「セーフティネット保証4号」とはさらに別枠の100%保証も実施。また、中小企業活性化協議会による債務調整支援等を通じた事業再生支援を実施。多重債務問題への対応として、地域金融機関等とも協議の上、ファンドを含む様々な金融ツールを検討。

4. サプライチェーンの状況

- 一部の半導体関連工場では、設備等の確認・点検のため操業を停止していたが、TSMC熊本や三菱電機、ルネサスなど、稼働を再開している工場も増加。
- 一部の自動車部品工場において、設備等に被害が発生し操業を停止していたが、アイシン九州、Astemo宇城は生産を再開。
一部の完成車メーカー（OEM）では、部品メーカーの被害状況の確認等を優先し、生産を一部停止していたが、各社生産を再開。

※ 28日(金)時点で、経産省本省2名・経産局9名・産業保安監督部2名、合計13名を熊本県庁・市町等の現場へ派遣。

■インフラ復旧 OTEC-FORCEの活動

- ・全国から国土交通省TEC-FORCEが集結し、被災状況調査や、給水・トイレ及び電源支援等の災害対策機械による応急対策の技術支援を実施。
- ・令和8年8月28日は、八代市、氷川町など3市3町において約90人が給水支援などの活動を実施中。
- ・令和8年7月28日の被災直後から、これまで6市4町を中心に、のべ約5,000人・日で活動を展開(リエゾン等含む)

被災状況調査

▼ヘリによる上空からの被災状況調査及び映像の提供



宇城市



▼デジタル機器を用いた被災状況調査



▼岸壁背後の被災状況調査



▼TEC-FORCE出発式(8/25)



【宇土市】

- ・被災状況調査(河川)
- ・給水支援

【宇城市】

- ・被災状況調査(河川・道路)
- ・給水支援
- ・船舶による支援物資輸送及び給水・入浴・洗濯支援(三角港)

▼調査報告書の手交、説明(8/20)



【氷川町】

- ・被災状況調査(河川)
- ・給水支援、電源支援

天草市

【天草市】

- ・被災状況調査(港湾)

【熊本県】

- ・現地災害対策本部(連絡調整等)
- ・被災地上空調査
- ・機械操作、映像撮影、情報通信
- ・JETT等の派遣 等

【熊本市】

- ・被災状況調査(熊本城公園)
- ・給水支援

【嘉島町】

- ・照明車支援
- ・給水支援

【甲佐町】

- ・被災状況調査(道路、のり面)
- ・応急対策班

【美里町】

- ・電源支援・被災状況調査

【八代市】

- ・被災状況調査(港湾・河川・道路)
- ・給水支援
- ・船舶による支援物資輸送及び給水・入浴・洗濯支援(八代港)

【上天草市】

- ・被災状況調査(港湾)

被災者支援

▼照明車による人命救助活動の支援



▼断水発生による給水支援



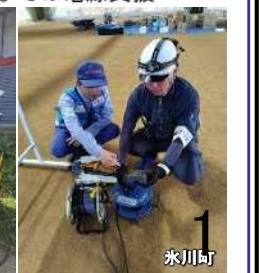
▼防災用コンテナ型トイレの派遣



▼ボランティアセンターへ対策本部車を提供



▼電力復旧までの電源支援



令和8年8月28日現在:のべ約5,000人・日

○インフラ施設の復旧(道路、鉄道、港湾、河川、上下水道など)

・災害を受けた道路・河川・港湾等について、国が施行する災害復旧事業等(権限代行を含む)に要する経費に係る予備費の使用について、本日、閣議決定

(1)道路

■高速道路

(E3A南九州道) ※NEXCO管理:八代JCT~日奈久IC、国管理:日奈久IC~田浦IC

- ・八代JCT~八代南ICにおいて、引き続き復旧作業に伴う通行止めを継続。
- ・8月29日復旧に関する有識者委員会を開催予定。

■直轄国道(直轄高速除く)

- ・被災による通行止め:なし

(2)鉄道

- ・JR九州新幹線(熊本駅~新水俣駅)は、9月18日(金)より運行再開予定。
- ・JR鹿児島本線(宇土駅~八代駅)は、10月中旬頃の運行再開を目指す。
- ・肥薩おれんじ鉄道(肥後田浦駅~水俣駅)は、9月1日(火)より運行再開予定。
- (八代駅~肥後田浦駅)は、9月上旬に再開時期を公表予定。

(3)港湾

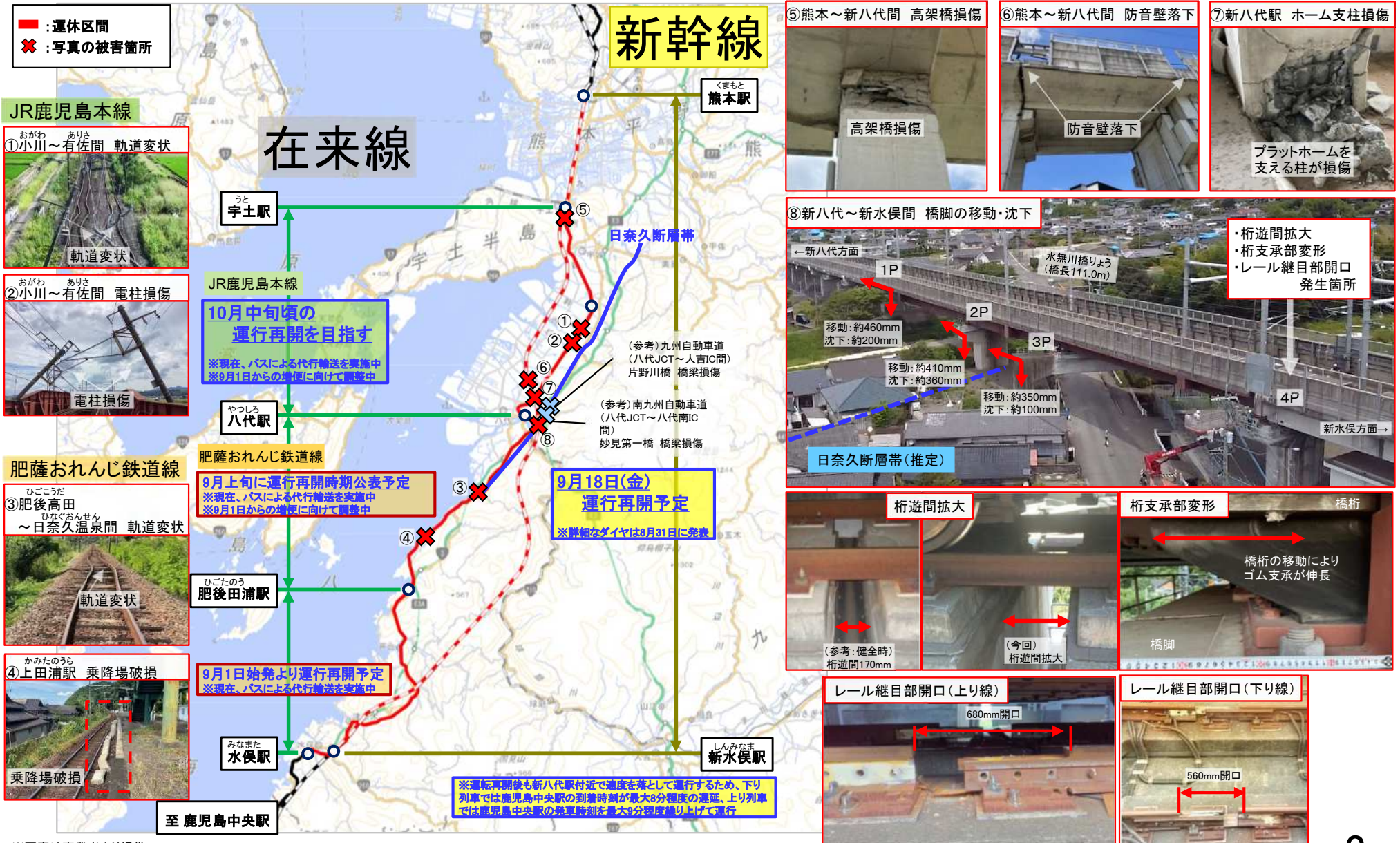
- ・八代港では、地震動による岸壁の変位及び液状化による噴砂や、沈下等が発生。
- ・耐震強化岸壁の応急復旧を7月29日に実施。港内の主な岸壁について、貨物船による利用可否の判断が8月31日に完了予定。
- ・8月12日には穀物の荷役を再開し、24日には8万トン級の大型穀物船の入港、25日にはセメントの材料となる石灰石の荷役を再開、31日には原木の荷役を再開予定。
- ・本格復旧に向けて、8月28日に第2回「八代港被災施設復旧技術検討委員会」を開催、9月中に復旧設計方針を取りまとめ予定。



▲石灰石荷役の再開(8/25)

国土交通省(現地対策本部)からの報告【鉄道関係】

令和8年熊本地震 鉄道の復旧予定等



○インフラ施設の復旧(道路、鉄道、港湾、河川、上下水道など)

(4)河川

■国管理河川

- ・白川水系・緑川水系・球磨川水系内の8河川で堤防の損傷被害。
- ・8月7日を以て、対象全91箇所について、応急復旧完了。

(5)上下水道

■水道

- ・8月28日10:00時点、宇城市の断水が解消、断水戸数は58戸(氷川町)
- ・早ければ28日中、遅くとも29日までには氷川町の復旧が完了する見込み

■下水道

- ・応急復旧調査は約282kmの管路を対象に実施し、さらに、応急復旧が必要な8箇所について、8月13日に点検・応急復旧作業は完了したものの、その後、3箇所で大規模な不具合が見つかり、2箇所に対応済み、残り1箇所に対応中(下水道は使用可能)。

○応急給水

- ・「現地応急給水支援本部」において、国土交通省の現地派遣職員が日本水道協会と連携し、自衛隊等による給水活動とも調整しながら、避難所・医療機関・福祉施設などの重要施設における給水ニーズを把握し、優先度を踏まえ応急給水を実施
- ・給水車 合計93台(国 18台、日本水道協会 69台、自衛隊 6台)※8月27日現在
- ・水資源機構が保有する可搬式浄水装置を設置し、氷川町において8/9から8/22まで入浴施設への給水に活用。
- ・水道の復旧に伴い、今後の給水活動については、八代市を除く自治体について、ニーズを踏まえ、順次縮小、八代市についてはきめ細かな応急給水を実施。

○船舶等による直接的な給水スポットとしての活動

- ・地方整備局の船舶による給水支援の場所・時間等が一目で分かるよう、SNSを活用した情報発信を実施中。
- ・八代港において、昨日8/27(木)までに約677トン、8/28(金)に約0.6トン(12:00時点)の給水支援を実施。本日8/28(金)をもって終了予定。



給水支援の様子

(調査観測兼清掃船「海輝」・「海煌」、八代港)

国土交通省(現地対策本部)からの報告【井戸復旧関係】

被害を受けた井戸に関する洗浄等の応急的な対応について

- 熊本県は地下水が豊富であり、水道を利用していない地域においては、個人井戸等により水を利用。
 - 今回被害が大きかった八代市では、金剛地区等を中心に、被害戸数は約4,500戸(八代市調べ)。
 - このため、8月15日より被害状況や住民意向等のアンケート調査を実施し、希望者に対し井戸洗浄等を行う工事業者を速やかに派遣。(県内業者は15社程度であることから、(一社)全国さく井協会等と連携し全国から広域的に業者を確保)
 - 回答のあった希望者に対し、順次洗浄等を行うとともに、洗浄等により水が出なければ井戸の修繕等を実施。
- ※ 応急給水については、9月より給水スポットの増強等により、きめ細やかな給水を実施。(別紙)

＜八代市での井戸の被害状況＞

八代市が市内の井戸の被害状況を調査

井戸を利用していると想定される戸数	うち被害が生じていると想定される戸数
約 15,000戸	約 4,500戸

※その他周辺の断水被害が大きい市町(宇城市、氷川町等)へも被害状況やアンケート対応のニーズを確認中



濁り水が発生した個人宅の井戸(八代市金剛地区)

＜応急的な対応フロー(イメージ)＞

(1) 調査

1) 基礎情報収集

観測井データ、ボーリングデータ、地形図、井戸位置情報 など

2) アンケート

井戸の基礎情報(位置、設置時期、口径、深さ等)、被害状況、対応意向 など

※ 8月15日から金剛地区含む6地区にアンケート開始

(2) 応急的な対応

1) 井戸洗浄

アンケートの結果等を踏まえ速やかに対応

※ 8月19日から洗浄に着手

2) 井戸の修繕等

井戸洗浄により水が出なければ、修繕等を実施

※ 8月20日に八代市に専用窓口を開設



井戸の洗浄作業

きめ細やかな応急給水について

- 個人井戸を使用している世帯の多い八代市においては、引き続き水の確保が大きな課題。
- 特に給水区域外(球磨川・前川南側)については、現在の給水ポイント(6箇所)に対する応急給水を継続するとともに、**9月より新たに17箇所の給水ポイントを設置**することにより、地域住民に対する**よりきめ細やかな応急給水**を実施
- 給水区域(球磨川・前川北側)においても、井戸の被害により水を利用できない世帯が残ることから、8月末の水道本管の復旧後も、**応急給水を継続**しつつ、順次、**給水車での運用から仮設給水栓への切り替え**などを行い、効率的に運用。
- 医療機関・福祉施設については、当面の間、必要な応急給水を継続。
- **日本水道協会、国土交通省の給水車**により、これらの応急給水を継続・増強。
- 9月末を目途に、八代市による自主的な応急給水体制に移行することを前提に、引き続き、技術的支援を行う。



八代市におけるきめ細やかな応急給水のイメージ



仮設給水栓



仮設給水タンク

○道路交通マネジメント

- ・ 災害発生時における道路交通の確保と円滑な交通マネジメントの実現のため、関係機関が連携し九州地方整備局が中心となり「熊本県災害時交通マネジメント検討会(令和8年熊本地震)」の第6回会合を8月21日に開催。
- ・ 8月27日の国道219号 新萩原橋通行止め解除を踏まえ、引き続き交通状況の変化を踏まえた柔軟な迂回案内などを関係者間で連携しながら対応。
- ・ 南九州道 八代JCT～八代南IC間の通行止めが継続されることから、国道3号や県道42号等の迂回路を案内。
※ 現地の誘導看板等に従って通行をお願いします。
- ・ また、八代JCT～八代南IC間の通行止めに伴い、熊本方面と水俣方面を通行される際に、一旦高速道路を降り、再度乗り継いだ場合、通行料金の調整を実施。
- ・ 8月8日朝、国道3号(氷川町大野～八代市岡町中)で8月4日から実施していた『ピンポイント路面改善作戦』が完了。
- ・ また、8月15日朝には、追加12箇所(宇城市松橋町久具～八代市高下西町)の『ピンポイント路面改善作戦《第2弾》』も完了し、国道3号の走行性が改善。
- ・ 8月19日から26日まで、国道3号歩道部(通学路)の集中修繕工事を実施し通学路の安全を確保。
- ・ 道路の復旧見通しに関する現地PR「道路復旧見える化プロジェクト」看板を21箇所67枚設置。
- ・ 渋滞対策として、引き続き、道路規制情報、渋滞情報等について、道路情報板、各機関HP、SNS等により提供。
特に、八代市周辺の交通状況については以下のHPで毎日更新。

(国土交通省道路局HP) https://www.mlit.go.jp/road/road_fr4_000201.html

○緊急物資輸送

2次輸送(県→市町村の拠点輸送)は県トラック協会が輸送を手配中。3次輸送(市町村→避難所等)については各自治体が運送事業者のサポートも得ながら対応中。

○緊急物資輸送(雨漏り対策支援)

(一社)日本建設業連合会等を通じて、土嚢袋約20万袋を配布済(宇土市・美里町・菊陽町・山都町・八代市・氷川町・上天草市)。

あわせて、ブルーシートについては九州地方整備局と日本建設業連合会九州支社との災害協定に基づき、県・各市町へ累計約19,000枚を配布。



宇城市ブルーシート配送完了(R8.8.5)



宇土市ブルーシート配布状況

○鉄道の代行輸送

・JR鹿児島本線の不通区間の代行バスについて、8月26日(木)から、宇土駅と八代駅の間でも運行開始。

・肥薩おれんじ鉄道の不通区間の代行バスについて、9月1日(火)から、肥後田浦駅～水俣駅間の復旧により、八代駅～肥後田浦駅間に短縮予定

国土交通省(現地対策本部)からの報告【鉄道関係】

令和8年熊本地震 代行バス輸送実施状況等

国土交通省
8/28 13:00時点



JR鹿児島本線

運転見合わせ区間: 宇土駅～八代駅間(営業キロ24.8km)

○ 8月19日(水)より以下のとおり代行バスを実施中

1. 宇土駅～松橋駅間(松橋循環バス)

所要時間: 約20分(片道)※朝夕の時間帯に約15分間隔で運行

運行本数: 上下計68本【輸送力3,400人/日】

下り(松橋方面) 6:00(始発) 20:30(終発)

上り(宇土方面) 6:00(始発) 20:30(終発)

2. 宇土駅～松橋駅～小川駅間(小川循環バス)

所要時間: 約1時間(片道)※朝夕の時間帯に約20分間隔で運行

運行本数: 上下計46本【輸送力2,300人/日】

下り(小川方面) 6:00(始発) 20:20(終発)

上り(宇土方面) 6:00(始発) 20:20(終発)

運行本数計: 上下計114本【輸送力5,700人/日】

○ 8月26日(水)より以下のとおり代行バスを実施中

3. 宇土駅～八代駅間

所要時間: 約1時間50分(片道)※朝夕の時間帯にダイヤによる運行

運行本数: 上下計14本(各2台で運行)【輸送力1,400人/日】

下り(八代方面) 6:40(始発) 18:50(終発)

上り(宇土方面) 6:05(始発) 18:30(終発)

※上り(宇土方面)のうち2便は新八代駅発

※9月1日からの増便に向けて調整中

肥薩おれんじ鉄道線

運転見合わせ区間: 八代駅～水俣駅間(営業キロ49.6km)

○ 8月10日(月)より以下のとおり代行バスを実施中

所要時間: 約2時間20分(片道)

運行本数: 上下計12本【輸送力600人/日】

下り(水俣方面) 5:19(始発) 18:47(終発)

上り(八代方面) 6:47(始発) 20:10(終発)

○ 9月1日(火)から、肥後田浦駅～水俣駅間の復旧により、代行バス区間を八代駅～肥後田浦駅間に短縮予定

所要時間: 約60分(片道)

運行本数: 上下計23本(平日)【輸送力1,150人/日】

下り(水俣方面) 6:05(始発) 19:32(終発)

上り(八代方面) 6:08(始発) 20:47(終発)

※上記のほか、JR九州代行バスに接続する特別便を1便運行

上り(八代方面)水俣駅 4:00発 ～ 八代駅 5:55着

○住宅

- ・(独)都市再生機構において、被災者向けの住宅提供として、UR賃貸住宅を全国で140戸確保。8月7日より受付開始。
- ・被災者の住まいの確保に関する情報をとりまとめ、8月7日より国土交通省HPに掲載
https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk3_000188.html
(公営住宅等の提供、賃貸型応急住宅の提供、(独)住宅金融支援機構による災害復興住宅融資等、被災住宅の補修等に関する相談窓口、住宅リフォーム事業者等に関する情報)
- ・被災住宅の補修等に関する電話相談のためのフリーダイヤル開設(8月25日)

○観光

- ・国による旅行・宿泊料金の割引支援については、約151億円の使用を決定
- ・「九州ふっこう応援割」とし、九州地方全域への宿泊旅行等を対象に割引支援を実施

国土交通省（現地対策本部）からの報告【観光関連】

観光需要喚起に向けた支援（九州ふっこう応援割）

令和8年度予備費：151億円

事業目的・背景・課題

- 令和8年熊本地震により、熊本県のみならず、九州地方全域において宿泊予約キャンセルが多数発生している。
- 九州地方の観光復興をいち早く遂げるため、地元の意見も踏まえつつ、国内旅行者等を対象とした旅行・宿泊料金の割引支援を実施し、観光需要を喚起する。

事業内容

旅行・宿泊料金の割引支援

- 九州地方における一泊以上の旅行・宿泊商品を対象に、旅行・宿泊料金を支援

（補助率）

旅行・宿泊料金の50%（泊/人）

※キャンセルによる観光への影響が大きい熊本県・鹿児島県は60%

（限度額）

宿泊単体商品・交通付宿泊旅行商品 1泊 2.0万円

交通付宿泊旅行商品（2泊以上） 3.0万円

周遊型旅行商品（宿泊地が2県以上） 3.5万円

（割引対象期間）

令和8年10月1日（木）宿泊分から

事業スキーム



※ 数値等は全て速報値のため、
今後変更される可能性があります。

令和8年熊本地震に係る災害派遣について（令和8年8月27日活動実績）

令和8年8月28日
防衛省

概要

- 令和8年7月28日（火）1627頃、熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生。
- 同日（28日）1730、熊本県知事から陸自第8師団長（北熊本・熊本）に対し、情報収集、人命救助、物資輸送、生活支援等に係る災害派遣要請があり、同時刻受理。
- 昨日（27日）現在、陸自第8師団を中心とする自衛隊員約5,100名態勢で活動。

昨日 （27日） の 自衛隊の 主な活動

【主な活動部隊等】

陸自第8後方支援連隊（北熊本・熊本）、陸自第8特殊武器防護隊（北熊本・熊本）、陸自西部方面後方支援隊（目達原・佐賀）、海自艦艇1隻（うらが）、空自第12飛行教育団（防府北・山口）、空自航空教育隊（防府南・山口）等

【給水支援活動（3市3箇所）】

- 給水車5両
 - ・八代市については、人工透析に必要な水が不足している病院への給水支援。
 - ・宇城市、宇土市については、入浴支援のための給水。

【入浴支援（4市町5箇所）】

＜宇城市（1箇所）＞

- 陸自第8後方支援連隊
 - ・小川防災拠点センターにて、シャワーによる入浴支援を、午後5時から午後11時まで実施。

＜八代市（2箇所 ※「はくおうⅡ」含む）＞

- 海自多用途支援艦「うらが」、海自佐世保入浴支援隊、大湊入浴支援隊
 - ・八代港岸壁及び「うらが」内にて、シャワーと浴槽による入浴支援を、午後3時から午後9時30分まで実施。「うらが」内で洗濯支援、健康相談、充電支援を実施。

＜氷川町（1箇所）＞

- 空自第12飛行教育団、空自航空教育隊
 - ・氷川中学校にて、水再生型シャワーによる入浴支援を、午後2時から午後10時まで実施。

＜宇土市（1箇所）＞

- 陸自第8後方支援連隊
 - ・宇土アリーナにて、シャワーによる入浴支援を、午後5時から午後10時まで実施。

【PFI船舶「はくおうⅡ」による生活支援】

- PFI船舶「はくおうⅡ」、PFI船舶支援隊（県庁で連絡員として勤務）
 - ・八代港に停泊している「はくおうⅡ」内で、入浴支援等を正午から午後2時、午後3時から午後5時、午後6時から午後8時まで実施。
 - ・八代港に停泊している「はくおうⅡ」内で、8月26日から2泊3日の宿泊支援及び食事支援を実施。

【連絡員の派遣状況】

- 熊本県庁等に、最大4箇所・延べ約10名派遣。

活動の様子



【八代市】「うらが」での入浴支援受付の様子 ※8/27撮影



【氷川町】入浴支援準備にあたる空自隊員 ※8/15撮影



【宇城市】入浴支援準備にあたる空自隊員 ※8/3撮影